

初産婦の母親役割行動に関する研究

Reva Rubin の妊婦の母親役割獲得過程における概念を用いて

三澤 寿美¹⁾・小松 良子²⁾・片桐 千鶴²⁾
大江 誠子³⁾・藤澤 洋子¹⁾

Maternal role behaviors of women in childbirth for the first-time

Using concepts from "The Process of Maternal Role Attainment"
advocated by Reva Rubin

Sumi MISAWA¹⁾, Ryoko KOMATSU²⁾, Chizu KATAGIRI²⁾
Seiko OE³⁾, Yohko FUJISAWA¹⁾

Abstract : The purpose of this study is to make clear whether or not there is a relation between the five states that Japanese mothers, about to give birth, undergo, according to Rubin in "The process of maternal role attainment". The study also looks at whether or not these five states are similar among women during pregnancy as opposed to those women who have already given birth. The survey was carried out on 255 pregnant women using a self-assessed question sheet. The subjects were to be first-time mothers and their ages ranged from 18 to 43 with an average age of 28.2 years. The results that were concluded from this survey are listed below :

- 1) Japanese first-time mothers to be went through these stages : i) Mimicry mimicry what it would be like to be a mother. ii) Role-play putting themselves in different situations. iii) Fantasy thinking about what their child might be. iv) Introjection, projection, rejection three stages of doubt. v) Grief Work with things that have been sacrificed to become a mother
- 2) The number of completed weeks could be linked to the mother's feelings and hopes towards 'preparation for birth', 'baby items', 'sex of the fetus', 'future of the child'.
- 3) There was a relationship which showed that these mothers to be, were close to those mothers that had already given birth with comments such as, 'hopes to meet friends that have babies / children', 'holding other people's babies', 'talking to the fetus while still in the womb'.

Key Words : Women in childbirth for the first time (first-time mothers), Maternal role behaviors, Mimicry, Role play, Fantasy, Introjection-Projection-Rejection, Grief work, Completed weeks

1) 山形県立保健医療大学看護学科
〒990-2212 山形市上柳 260
Department of Nursing, Yamagata Prefectural University
of Health Sciences
260 Kamiyanagi, Yamagata 990-2212, Japan

2) 山形県立中央病院
〒990-2292 山形市青柳 1800
Yamagata Prefectural Central Hospital
1800 Aoyagi, Yamagata 990-2292, Japan

3) 正岡病院
〒730-0852 広島市中区猫屋町 4-6
Masaoka Hospital
8-4 Nekoya-cho, Naka-ku, Hiroshima 730-0852, Japan

はじめに

母親役割の獲得は母親になろうとしている女性の課題であり、学習により得られる複雑な社会的認識のプロセス¹⁾である。また、このプロセスは妊娠中からはじまり²⁾、身近な母親役割モデルの存在がこのプロセスに影響を与える³⁾と考えられる。しかし、近年の日本においては、核家族化や少子化に伴い、身近に役割モデルとなる子育て中の母親がいないなど、わが国の妊婦は母親役割を学習する機会が少ないと考えられる。

また、現在、国内における妊婦を対象とした研究では妊婦の自己概念⁴⁾、妊娠中の胎児への愛着形成⁵⁾や対児感情⁶⁾⁷⁾を研究しているものが多く、近年母親役割獲得過程⁸⁾⁹⁾や親性の発達¹⁰⁾に関する研究は行われているものの、妊娠中の具体的な母親役割行動に関する詳細は明らかにされていない。

一方、Rubinは約6000名の女性を対象に、女性の主観的体験をもとにした母親役割獲得過程の理論を構築した。Rubinは、規範的な母親役割の模倣実践である模倣、母親役割行動を試行してみるロールプレイ、自分の子どもや自分自身の状況を想像する空想、役割モデルを吟味し、取り入れたり拒否したりする取り込み 投影 拒絶、母親役割遂行に伴って過去の自己の喪失を識別する時に生じる悲嘆作業の5つの操作を経て妊婦の母親役割獲得過程は進行するとし、時間経過としてはおおそ模倣が操作の始まりとしている¹¹⁾。したがって、母親役割獲得過程のはじめの操作である模倣およびロールプレイの促進が、この過程を促進することにつながると考えられる。しかし、日本とは異なった社会文化的な背景で構築された概念がわが国の妊産婦に適用されることが適切なのかについては検討されていないのが現状である。

また、妊婦の母親役割獲得過程における母親役割行動については、個別性が重要視されるために質的帰納的研究が多いが、日本の社会文化的な背景に根ざした理論の構築までには至っていないのが現状である。

以上のような現状から、Rubinの母親役割獲得過程における母性発達課題について、わが国の妊婦が実際に行っている母親役割行動の実態を明らかにするために調査を行った。

研究目的

わが国の初産婦がRubinの示す母親役割獲得過程における5つの操作²⁾³⁾¹⁰⁾に関する母親役割行動を行っているのかどうかを明らかにする。

妊娠週数と5つの操作に関する母親役割行動の関係、小さい子どもをもつ母親が近所にいるかどうかと模倣およびロールプレイに関する母親役割行動の関係を明らかにする。

研究方法

1. 用語の定義:

<母親役割獲得過程>

母親としての自己を形成し、母親役割に関する知識を得たり、技術を習得することによって母親としての準備を整える過程である。

<母親役割行動>

子どもを迎えるためにとられる具体的な準備行動である。

2. 調査期間:平成13年1月19日~平成13年3月3日

3. 調査対象:A県内の総合病院1施設で、妊婦健康診査に通院する日本人の初産婦255人を対象とした。

4. 調査方法:調査には、Rubinの示す母親役割獲得過程における5つの操作、すなわち模倣・ロールプレイ・空想・取り込み 投影 拒絶・悲嘆作業の概念を参考に研究者が独自に作成した自己記入式質問紙を用いた。質問紙は、Rubinの示す母親役割獲得過程のアセスメント項目を日本人の表現方法の特徴に応じて検討し、アセスメントガイド作成に関して研究を行なっている母性看護学領域研究者より助言を得て作成し、プレテストの後、本調査を行なった。質問項目は、模倣9項目、ロールプレイ8項目、空想18項目、取り込み 投影 拒絶4項目、悲嘆作業10項目とし、2件法で調査した。質問紙は健康診査の待ち時間に配布し、記入後即時回収した。

5. 倫理的配慮:口頭および文書で調査協力を依頼した。依頼文書には調査目的、回答拒否が可能であること、調査への協力は病院の診療や看護と一切関係ないことを明記した。プライバシー保護のため無記名とした。

6. 分析方法:各質問項目の回答について単純集

計を行った。また、調査時の妊娠週数により、対象者を妊娠初期群（妊娠 16 週未満）・妊娠中期群（妊娠 16 週～妊娠 27 週）・妊娠後期群（妊娠 28 週以降）の 3 群に分け、Fisher の直接確率法を用い、母親役割行動の実行状況を比較した。さらに、近所に子どものいる母親がいる群としない群の 2 群に分け X^2 検定を用い、母親役割行動の実行状況を比較した。分析には統計パッケージ SPSS 10.0 J for Windows を使用し、有意確率を 5% 未満とした。

結 果

妊婦 255 人から回答が得られた。有効回答数は 245 で、有効回答率は 96.0% であった。

対象者の属性については、表 1 のとおりである。

平均年齢は 28.2 歳（範囲 18 歳～43 歳）、結婚から今回の妊娠までの平均年数は 2.8 年（範囲 1 年～15 年）、妊娠回数の平均は 1.5 回（範囲 1 回～5 回）、調査時の平均妊娠週数は 28.4 週（範囲 妊娠 10 週～妊娠 41 週）であった。同居家族が夫のみの核家族の人は 163 人（66.5%）であり、小さい子どものいる母親が近所にいる人は 190 人（77.6%）であった（表 1）。

模倣に関する質問への回答では、「育児のための雑誌や本を見る」196 人（80.0%）、「子育ての真似をする」13 人（5.3%）であった。妊娠初期群・妊娠中期群・妊娠後期群の 3 群で比較したところ、

「出産のための準備」「赤ちゃん用品の準備」の 2 項目に統計的有意差があり（ $p < 0.001$ ）、妊娠後期になるにしたがって準備をする人が有意に増加していた（表 2）。

ロールプレイに関する質問への回答では、「おなかの中の子どもに話しかける」186 人（75.9%）、「小さい子どもに目がいく」175 人（71.4%）、「小さい子どもに近寄って触れる」94 人（38.4%）、「小さい子どものいる友人と会いたい」79 人（32.2%）、「おむつ交換」59 人（24.1%）、「子どもの泣き声がるさく感じない」37 人（15.1%）であった。また、妊娠初期群・妊娠中期群・妊娠後期群の 3 群で比較したところ、「おなかの中の子どもに話しかける」の 1 項目で統計的有意差があり（ $p < 0.001$ ）、妊娠後期になるにしたがっておなか

表 1. 対象者の属性

		n = 245
平均年齢（歳）		28.2 ± 4.6
結婚してからの平均期間（年）		2.8 ± 2.4
今回の妊娠を含めた平均妊娠回数（回）		1.5 ± 0.7
調査時の平均妊娠週数（週）		28.4 ± 8.3
現在同居している人の人数	人（%）	
	夫のみ	163 (66.5)
	夫と親族	72 (29.4)
	親族	10 (4.1)
小さい子どもをもつ母親が近くにいる人の人数	人（%）	
	いる	190 (77.6)
	いない	55 (22.4)

Mean ± SD

表 2. 妊娠週数別比較：模倣

		全 体		妊 娠 初 期		妊 娠 中 期		妊 娠 後 期		検 定
		n = 245 人数	%	n = 19 人数	%	n = 85 人数	%	n = 141 人数	%	
子育ての真似をする	あり	13	5.3	3	15.8	4	4.7	6	4.3	n.s.
	なし	232	94.7	16	84.2	81	95.3	135	95.7	
栄養について考えるようになった	あり	153	62.4	11	57.9	56	65.9	86	61.0	n.s.
	なし	92	37.6	8	42.1	29	34.1	56	39.7	
良い音楽を聞いたり、 良い絵をみたりする	あり	31	12.7	4	21.1	8	9.4	19	13.5	n.s.
	なし	214	87.3	15	78.9	77	90.6	122	86.5	
部屋やベッドのことを考える	あり	129	52.7	8	42.1	45	52.9	76	53.9	n.s.
	なし	116	47.3	11	57.9	40	47.1	65	46.1	
母親学級や両親学級に 行きたいと思う	あり	100	40.8	7	36.8	33	38.8	60	42.6	n.s.
	なし	145	59.2	12	63.2	52	61.2	81	57.4	
育児のための雑誌や本を 見るようになった	あり	196	80.0	16	84.2	69	81.2	111	78.7	n.s.
	なし	49	20.0	3	15.8	16	18.8	30	21.3	
妊婦や子ども連れに関心がある	あり	179	73.1	11	57.9	65	76.5	103	73.0	n.s.
	なし	66	26.9	8	42.1	20	23.5	38	27.0	
出産のための準備をはじめ	あり	160	65.3	2	10.5	38	44.7	120	85.1	***
	なし	85	34.7	17	89.5	47	55.3	21	14.9	
赤ちゃん用品を準備し始める	あり	159	64.9	1	5.3	35	41.2	123	87.2	***
	なし	86	35.1	18	94.7	50	58.8	18	12.8	

Fisher の直接確率法 *** $p < 0.001$ n.s. non significance

の子どもに話しかける人が有意に増加していた (表3)。

空想や想像していることに関する質問への回答では、「おなかの中の子どもはどんな子か」230人

(93.9%), 「お産のこと」193人(78.8%), 「かわいい子ども」168人(68.6%), 「生まれてからの子どもの成長」153人(62.4%), 「おなかの中の子どもの性別」147人(60.0%), 「育児について心配・

表3. 妊娠週数別比較: ロールプレイ

		全 体 n = 245		妊娠 初期 n = 19		妊娠 中期 n = 85		妊娠 後期 n = 141		検 定
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
小さい子どものいる友人に会いたい	あり	79	32.2	7	36.8	25	29.4	47	33.3	n.s.
	なし	166	67.8	12	63.2	60	70.6	94	66.7	
最近小さい子どもを抱っこした	あり	121	49.4	7	36.8	39	45.9	75	53.2	n.s.
	なし	124	50.6	12	63.2	47	55.3	66	46.8	
最近おもむつを換えた	あり	59	24.1	2	10.5	20	23.5	37	26.2	n.s.
	なし	186	75.9	17	89.5	65	76.5	104	73.8	
子どもに目がいく	あり	175	71.4	11	57.9	63	74.1	101	71.6	n.s.
	なし	75	30.6	8	42.1	22	25.9	40	28.4	
子どもに近寄って触れた	あり	94	38.4	6	31.6	26	30.6	62	44.0	n.s.
	なし	151	61.6	13	68.4	56	65.9	79	56.0	
子どもの泣き声がうるさく感じない	あり	37	15.1	2	10.5	13	15.3	22	15.6	n.s.
	なし	208	84.9	17	89.5	72	84.7	119	84.4	
沐浴の練習の機会があれば積極的にする	あり	40	16.3	2	10.5	14	16.5	24	17.0	n.s.
	なし	205	83.7	17	89.5	71	83.5	117	83.0	
おなかの子どもに話しかける	あり	186	75.9	6	31.6	65	76.5	118	83.7	***
	なし	56	22.9	13	68.4	20	23.5	23	16.3	

Fisherの直接確率法

*** p < 0.001

n.s. non significance

表4. 妊娠週数別比較: 空想・想像

		全 体 n = 245		妊娠 初期 n = 19		妊娠 中期 n = 85		妊娠 後期 n = 141		検 定
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
おなかの子どもを何も想像しない	あり	4	1.6	0	0.0	3	3.5	0	0.0	n.s.
	なし	242	98.8	19	100.0	82	96.5	141	100.0	
おなかの子どもはどんな子かと想像する	あり	230	93.9	16	84.2	77	90.6	137	97.2	*
	なし	15	6.1	3	15.8	8	9.4	4	2.8	
おなかの子ども性別を想像する	あり	147	60.0	19	100.0	59	69.4	69	48.9	***
	なし	98	40.0	0	0.0	26	30.6	72	51.1	
生まれてからの子どもの成長を想像する	あり	153	62.4	10	52.6	45	52.9	98	69.5	*
	なし	92	37.6	9	47.4	40	47.1	43	30.5	
生まれてからの子についてかわいい子を想像する	あり	168	68.6	14	73.7	55	64.7	99	70.2	n.s.
	なし	77	31.4	5	26.3	30	35.3	42	29.8	
生まれてからの子について醜い子を想像する	あり	4	1.6	0	0.0	1	1.2	3	2.1	n.s.
	なし	241	98.4	19	100.0	84	98.8	138	97.9	
生まれてからの子について手のかからない子おとなしい子を想像する	あり	51	20.8	3	15.8	18	21.2	30	21.3	n.s.
	なし	194	79.2	16	84.2	67	78.8	111	78.7	
生まれてからの子について手のかかる子うるさい子を想像する	あり	57	23.3	0	0.0	24	28.2	33	23.4	n.s.
	なし	188	76.7	19	100.0	61	71.8	108	76.6	
生まれてからの子について夫に似てほしい	あり	114	46.5	9	47.4	42	49.4	63	44.7	n.s.
	なし	131	53.5	10	52.6	43	50.6	78	55.3	
生まれてからの子について自分に似て欲しい	あり	99	40.4	8	42.1	36	42.4	55	39.0	n.s.
	なし	146	59.6	11	57.9	49	57.6	86	61.0	
生まれてくる子に会うのが楽しみ	あり	221	90.2	16	84.2	75	88.2	130	92.2	n.s.
	なし	24	9.8	3	15.8	10	11.8	11	7.8	
育児について楽しいことを想像する	あり	134	54.7	10	52.6	45	52.9	79	56.0	n.s.
	なし	111	45.3	9	47.4	40	47.1	62	44.0	
育児についてつらいことを想像する	あり	71	29.0	4	21.1	26	30.6	41	29.1	n.s.
	なし	174	71.0	15	78.9	59	69.4	100	70.9	
育児について心配・不安なことを想像する	あり	130	53.1	8	42.1	44	51.8	78	55.3	n.s.
	なし	115	46.9	11	57.9	41	48.2	63	44.7	
子どもの教育方針を想像する	あり	75	30.6	5	26.3	24	28.2	46	32.6	n.s.
	なし	170	69.4	14	73.7	61	71.8	95	67.4	
母親としての自分を想像する	あり	126	51.4	7	36.8	46	54.1	73	51.8	n.s.
	なし	119	48.6	12	63.2	39	45.9	68	48.2	
お産の時のことを想像する	あり	193	78.8	14	73.7	63	74.1	116	82.3	n.s.
	なし	52	21.2	5	26.3	22	25.9	25	17.7	
夫が父親になることを想像する	あり	121	49.4	6	31.6	40	47.1	75	53.2	n.s.
	なし	124	50.6	13	68.4	45	52.9	66	46.8	

Fisherの直接確率法

*** p < 0.001, * p < 0.05

n.s. non significance

不安なこと」130人(53.1%),「母親としての自分」126人(51.4%),「夫が父親になること」121人(49.2%),「子どもの教育方針」75人(30.6%),「育児についてつらいこと」71人(29.0%),であった。また,妊娠初期群・妊娠中期群・妊娠後期群の3群で比較したところ,「おなかの中の子どもはどんな子か」「おなかの中の子どもの性別」「生まれてからの子どもの成長」の3項目で統計的有意差があり($p < 0.001$, $p < 0.05$),「おなかの中の子どもはどんな子か」「生まれてからの子どもの成長」の想像は妊娠後期になるにしたがって増加し,「おなかの中の子どもの性別」の想像は妊娠週数が初期の方が多かった(表4)。

取り込み 投影 拒絶に関する質問への回答

では,「他者の育児の方法をみて参考にすることとしないことを区別する」150人(61.2%),「専門家の言うことや本に書いてあることなかから取捨選択している」128人(52.2%),「期待以外の子どもでも受け入れなければならない」118人(48.2%),「育児の困難さを乗り越える覚悟や乗り越える方法について考える」92人(37.6%)であった。また,妊娠初期群・妊娠中期群・妊娠後期群の3群で比較したところ,妊娠経過時期で行動に差はなかった(表5)。

悲嘆作業に関する質問への回答では,「変化を受け入れている」133人(54.3%),「出産後の役割変化を受け入れられる」125人(51.0%),「妊娠によって生じた変化を悲しむ」81人(33.1%),「出産後

表5. 妊娠週数別比較: 取り込み - 投影 - 拒絶

		全 体 n = 245		妊娠 初期 n = 19		妊娠 中期 n = 85		妊娠 後期 n = 141		検 定
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
他者の育児方法を参考に するかしないかを区別する	あり	150	61.2	10	52.6	55	64.7	85	60.3	n.s.
	なし	95	38.8	9	47.4	30	35.3	56	39.7	
将来, 育児の困難さを 乗り越える覚悟や方法を考える	あり	92	37.6	3	15.8	36	42.4	53	37.6	n.s.
	なし	153	62.4	16	84.2	49	57.6	88	62.4	
専門家や本からの 情報を取捨選択する	あり	128	52.2	11	57.9	48	56.5	69	48.9	n.s.
	なし	117	47.8	8	42.1	37	43.5	72	51.1	
イメージ以外の子ども 受け入れる	あり	118	48.2	7	36.8	41	48.2	70	49.6	n.s.
	なし	127	51.8	12	63.2	44	51.8	71	50.4	

Fisherの直接確率法 n.s. non significance

表6. 妊娠週数別比較: 悲嘆作業

		全 体 n = 245		妊娠 初期 n = 19		妊娠 中期 n = 85		妊娠 後期 n = 141		検 定
		人数	%	人数	%	人数	%	人数	%	
妊娠による変化を悲しむ	あり	81	33.1	8	42.1	24	28.2	49	34.8	n.s.
	なし	164	66.9	11	57.9	61	71.8	92	65.2	
妊娠による変化を 受け入れられない	あり	6	2.4	1	5.3	1	1.2	4	2.8	n.s.
	なし	239	97.6	18	94.7	84	98.8	137	97.2	
妊娠による変化を 諦めている	あり	48	19.6	4	21.1	14	16.5	30	21.3	n.s.
	なし	197	80.4	15	78.9	71	83.5	111	78.7	
変化を受け入れるための 気分転換をしている	あり	59	24.1	2	10.5	24	28.2	33	23.4	n.s.
	なし	186	75.9	17	89.5	61	71.8	108	76.6	
変化を受け入れている	あり	133	54.3	7	36.8	52	61.2	74	52.5	n.s.
	なし	112	45.7	12	63.2	33	38.8	67	47.5	
出産後の役割変化を 悲しむ	あり	7	2.9	1	5.3	2	2.4	4	2.8	n.s.
	なし	238	97.1	18	94.7	83	97.6	137	97.2	
出産後の役割変化を 受け入れられない	あり	4	1.6	0	0.0	2	2.4	2	1.4	n.s.
	なし	241	98.4	19	100.0	83	97.6	139	98.6	
出産後の役割変化を 諦めている	あり	17	6.9	1	5.3	6	7.1	10	7.1	n.s.
	なし	228	93.1	18	94.7	79	92.9	131	92.9	
出産後の役割変化を 乗り越えるための気分転換をする	あり	55	22.4	3	15.8	20	23.5	32	22.7	n.s.
	なし	190	77.6	16	84.2	65	76.5	109	77.3	
出産後の役割変化を 受け入れられると思う	あり	125	51.0	7	36.8	46	54.1	72	51.1	n.s.
	なし	120	49.0	12	63.2	39	45.9	69	48.9	

Fisherの直接確率法 n.s. non significance

表7．近所に小さい子どもがいる母親の有無別比較：模倣

		あり群 n = 190		なし群 n = 55		検 定
		人数	%	人数	%	
子育ての真似をする	あり	11	5.8	2	3.6	n.s.
	なし	179	94.2	52	94.5	
栄養について考えるようになった	あり	119	62.6	34	61.8	n.s.
	なし	71	37.4	21	38.2	
良い音楽を聞いたり， 良い絵をみたりする	あり	24	12.6	7	12.7	n.s.
	なし	166	87.4	48	87.3	
部屋やベッドのことを考える	あり	100	52.6	29	52.7	n.s.
	なし	90	47.4	26	47.3	
母親学級や両親学級に 行きたいと思う	あり	75	39.5	24	43.6	n.s.
	なし	114	60.0	31	56.4	
育児のための雑誌や本を 見るようになった	あり	155	81.6	41	74.5	n.s.
	なし	35	18.4	14	25.5	
妊婦や子ども連れに関心がある	あり	137	72.1	42	76.4	n.s.
	なし	53	27.9	13	23.6	
出産のための準備をはじめ	あり	122	64.2	38	69.1	n.s.
	なし	68	35.8	17	30.9	
赤ちゃん用品を準備し始める	あり	122	64.2	37	67.3	n.s.
	なし	68	35.8	18	32.7	
X ² 検定						n.s. non significance

表8．近所に小さい子どもがいる母親の有無別比較：ロールプレイ

		あり群 n = 190		なし群 n = 55		検 定
		人数	%	人数	%	
小さい子どものいる 友人に会いたい	あり	68	35.8	11	20.0	*
	なし	122	64.2	44	80.0	
最近小さい子どもを 抱っこした	あり	107	56.3	14	25.5	***
	なし	83	43.7	41	74.5	
最近おむつを換えた	あり	51	26.8	8	14.5	n.s.
	なし	139	73.2	47	85.5	
子どもに目がいく	あり	139	73.2	36	65.5	n.s.
	なし	51	26.8	19	34.5	
子どもに近寄って触れた	あり	78	41.1	16	29.1	n.s.
	なし	112	58.9	39	70.9	
子どもの泣き声が うるさく感じない	あり	26	13.7	11	20.0	n.s.
	なし	164	86.3	44	80.0	
沐浴の練習の機会が あれば積極的にする	あり	30	15.8	10	18.2	n.s.
	なし	160	84.2	45	81.8	
おなかの子どもに 話しかける	あり	148	77.9	41	74.5	***
	なし	42	22.1	14	25.5	
X ² 検定						*** p < 0.001, * p < 0.05 n.s. non significance

の役割変化を乗り越えるための積極的な気分転換をする」55人(22.4%)、「妊娠によって生じた変化を諦めている」48人(19.6%)、「出産後の役割変化を諦めている」17人(6.9%)、「出産後の役割変化を悲しむ」7人(2.9%)、「出産後の役割変化を受け入れられない」4人(1.6%)であった。また、妊娠初期群・妊娠中期群・妊娠後期群の3群で比較したところ、妊娠経過時期で行動に差はなかった(表6)。

模倣とロールプレイの項目について、小さい子

どもをもつ母親が近所にいる群といない群の2群間で比較したところ、「小さい子どものいる友人に会いたい」「小さい子どもを抱っこする」「おなかの子どもに話しかける」の3項目で統計的有意差があり(p < 0.001, p < 0.05)、小さい子どもをもつ母親が近くにいた方が「小さい子どものいる友人に会いたい」「小さい子どもを抱っこする」「おなかの子どもに話しかける」が多かった(表7)(表8)。

考 察

Rubin の示す母親役割獲得過程における 5 つの操作の概念を参考に作成した妊婦の母親役割行動に関する質問紙を用いて調査を行った。この調査の対象者は、平均年齢は 28.2 歳で、平成 12 年厚生労働省人口動態統計による日本人女性の平均初産年齢 28.0 歳¹²⁾と比較して大差なかった。同居家族が夫のみの核家族である人が 163 人(66.6%)であり、平成 13 年厚生労働省全国生活基礎調査による全国の核家族率 58.9%¹³⁾と比較するとやや核家族である割合が高いが、この調査の対象者は、概ね平均的な初産婦の集団であるといえる。

また、この調査から得られた母親役割行動の結果より、すべての行動項目において誰も行っていない項目がないことが明らかになった。さらに、本研究の調査対象であった初産婦の妊娠後の具体的な行動の実態について、以下に考察する。

1. 模倣に関する母親役割行動について

模倣に関する結果から、妊婦は育児のための雑誌や本を見るようになったり、妊婦や子ども連れに関心をもっていた。子どもへの関心が非常に高まる妊娠期を利用して「新生児や乳児と接触する体験を持つ」という試みには意義がある⁹⁾ので、近くに子どもやその母親と直接的な接触を促すことが看護援助として考えられる。

2. ロールプレイに関する母親役割行動について

ロールプレイに関する結果から、子どもがいると直接的な接触として、抱っこを実際に行っているという傾向があった。しかし、実際の育児場面で必要とされるおむつ交換や沐浴などの育児技術的な行動はあまり行っていなかった。したがって、母親学級や保健指導の場面で、実際に育児行動を試行してみる機会を積極的に与えるなどの援助が必要と考えられる。

3. 空想に関する母親役割行動について

空想に関する結果から、子どもについての空想や想像の内容は、ネガティブな想像より、楽しみやかわいい子どもの想像が多かった。しかしその一方で、妊娠期より育児について心配や不安を抱えたり、つらいというイメージをもっている妊婦がいることから、具体的な心配・不安の内容やつらさをイメージさせる事柄が具体的にどのようなことなのかを個別に把握して妊娠期から援助して

いく必要性があると考えられる。

4. 取り込み 投影 拒絶に関する母親役割行動について

取り込み 投影 拒絶に関する結果から、妊婦は与えられるものをすべて取り入れているのではなく、妊婦自身が選択して取り入れることを自己決定しているという傾向が示された。妊婦の自己決定を助けるためには、妊婦が多様な情報を自分の生活に合わせて取捨選択できるように、必要な情報を十分に提供することが保健指導において重要であると考えられる。

さらに、期待以外の子どもの受け入れでは約半数の妊婦が受け入れる意思を示していたが、それ以外の妊婦においては受け入れの準備状態にないことが考えられた。実際には出生後に何らかの問題が明らかになる場合もあり、子どもの受け入れについては、期待どおりでないことが起こりうる可能性を妊娠期の指導場面において示しておくことが必要と考えられる。

5. 悲嘆作業に関する母親役割行動について

悲嘆作業に関する結果から、大多数の初産婦は役割変化を受け入れていると考えられた。しかし、少数ではあるが、役割変化を悲しんだり、受け入れられない、諦めているという初産婦もいることから、このように認識している妊婦が何に対して悲しんだり、諦めているのか、何が受け入れられないのかなどを具体的に把握したうえで、心理状態を理解し、個別的な援助を実施する必要があると考えられる。

6. 5 つの操作に関する母親役割行動と妊娠週数の関連について

妊娠週数との関連から、妊娠週数が経過することにより、より出産や子どもあるいは子育てに対する準備を行ったり、胎児に話しかけることが多くなる傾向にあった。

妊娠初期には妊娠の継続そのものに妊婦の関心の多くが向けられているが、安定期に入ると妊娠継続がある程度保証されるようになり、かつ胎動を自覚するようになる妊娠中期頃から、積極的に胎児に関心をもつようになると考えられる。さらに、この胎児への関心が出産や子育ての準備の動機づけになっていると考えられる。また、胎動を知覚した妊婦は胎児への愛着が増し、母性役割行動を多く取っていることがうかがわれる¹⁴⁾ことか

らも、胎動を初覚する妊娠20週前後の母親役割行動への介入が、児への愛着を促進することにつながると考えることができる。

また、胎児についての想像、生まれてからの子どもの成長の想像も週数が経過することにより、よりその頻度が多くなっていた。これは妊娠後期には妊娠初期に比べて、胎児としての子どもから、生まれてくる子どもについて、実際の生活と結びつけてイメージすることができるようになる傾向にあることを示していると考えられる。

一方、性別についての想像では、妊娠初期の方が想像する傾向にあった。これは調査協力施設において、超音波診断による性別の確認が妊娠20週で行われ、性別を告知されているケースが多く、妊娠中期以降の妊婦は不確定ではあるがすでに性別がわかっており、想像する必要がないためと考えられる。また、妊娠20週で胎児の性別の判定は、その後の妊婦の想像内容において、胎児の性別を限定した想像であったり、子どもを迎える準備においても性別を想定して行われるなど、その後の妊婦の具体的な母親役割行動に影響を与えている可能性が考えられる。

7. 模倣、ロールプレイに関する母親役割行動の小さい子どもをもつ母親が近所にいる・いないでの比較について

小さい子どもをもつ母親が近所にいる群においては、小さい子どものいる友人と会いたくなったり、直接的な接触として、抱っこを実際に行っているという傾向があった。しかし、子どものいる生活や子どもに対する思いやイメージは膨らみやすいが、実際に子育てに必要な育児技術を実施してみるまでには至っていないことを示していた。産褥期の母子と接触する機会がロールプレイへの取り組みを促進し、空想や取り込み 投影 拒絶の段階に進むことに影響している⁹⁾ことから、妊娠中の母親役割獲得過程においては、母親学級や両親学級で妊婦に子育て中の母親との接触の機会を意図的に与えるなどの企画を保健指導のなかに含めたり、子育てサークルの紹介やサークルへの参加をすすめるなどして、妊娠中から母親役割行動をイメージ化したり、具体的な実践を実際に行っておくことが母親役割獲得過程を促すことになると考えられる。

おわりに

Rubinの示す母親役割獲得過程における5つの操作、すなわち模倣・ロールプレイ・空想・取り込み 投影 拒絶・悲嘆作業の概念を参考に研究者が独自に作成した自己記入式質問紙を用いて母親役割行動の実態を調査した。結果、日本人の初産婦は、模倣・ロールプレイ・空想や想像・取り込み 投影 拒絶・悲嘆作業に関する母親役割行動を行っていた。妊娠週数と母親役割行動「出産の準備」、「赤ちゃん用品の準備」、「胎児の性別の想像」、「子どもの成長の想像」に関係があった。また、子どもをもつ母親が近所にいるかどうかと母親役割行動「小さい子どものいる友人と会いたい」、「小さい子どもを抱っこする」、「おなかの子どもに話しかける」に関係があった。以上より、妊娠週数に応じた母親役割行動に関する保健指導を実施するにあたっては、実際に育児技術を行ってみる機会を妊娠中の保健指導のプログラムに組み入れること、小さい子どもをもつ母親との接触を促すなどが具体的な看護援助として示唆された。

本研究の限界として、Rubinの理論構築の社会文化的背景と日本の社会文化的背景が異なることから、今回の調査がわが国の初産婦の母親役割行動のすべてをあらわしてはいないと考えられる。したがって、今後さらに妊婦の主観的な体験をデータとして収集し、その分析を通して日本の社会文化的背景に根づいた母親役割獲得過程に関する理論構築を考慮する必要があると考えられる。

謝 辞

本研究にご協力いただきました妊婦の皆様、さらにフィールドを提供してくださいました施設の方々に謹んで感謝いたします。また、質問紙作成についてご指導ご助言を賜りました大阪府立看護大学大平光子助教授に心より感謝申し上げます。

本稿の要旨は、第32回日本看護学会 母性看護 で発表した。

文 献

- 1) Rubin, R. : Attainment of the maternal role part processes. *Nursing Research*, 16 (3): 237-245, 1967.
- 2) Mercer, R. T. : A Theoretical framework for

- studying factors that impact on the maternal role. *Nursing Research*, 30 (2): 73-77, 1981.
- 3) Rubin, R.: Attainment of the maternal role part models and referents. *Nursing Research*, 16(4): 342-34, 1967.
 - 4) 岩田銀子, 山内葉月, 杉下知子: 妊婦の自己概念の再形成に関する一考察. *母性衛生* 38(2): 167-172, 1997.
 - 5) 成田 伸, 前原澄子: 母親の胎児への愛着形成に関する研究. *日本看護科学学会誌*, 13(2): 1-9, 1993.
 - 6) 交野好子: 妊婦の胎児認知と想像. *母性衛生*, 38(2): 288-296, 1997.
 - 7) 交野好子: 続・妊婦の胎児認知と想像 胎児の認知方法の違いから見た比較検討. *母性衛生*, 39(1): 38-42, 1998.
 - 8) 石井邦子, 森 恵美, 前原澄子: 妊娠期における母親役割獲得プロセスと共感性との関連について. *日本看護科学学会誌* 17(4): 37-45, 1997.
 - 9) 大平光子, 前原澄子, 森恵美: 妊娠期の母親役割獲得過程を促進する看護の検討(第1報) 模倣及びロールプレイに対する看護介入. *母性衛生* 40(1): 152-159, 1999.
 - 10) 鮫島雅子: 父親と母親における子どもの誕生に伴う「親性」の心理的変容(1) 「親性」尺度の作成と因子構造の検討. *日本看護研究学会雑誌* 22(5): 23-35, 1999.
 - 11) Rubin, R.: *Maternal Identity and the Maternal Experience*: 1984. (新道幸恵, 後藤桂子 訳) ルヴァ・ルービン母性論 母性の主観的体験: 医学書院 45-61, 1997.
 - 12) 厚生労働省「人口動態統計」: 国民衛生の動向, 厚生指標臨時増刊 49(9): 財団法人厚生統計協会, p43, 2002.
 - 13) 厚生労働省「国民生活基礎調査」: 国民衛生の動向, 厚生指標臨時増刊 49(9): 財団法人厚生統計協会, p37, 2002.
 - 14) 山本あい子: 日本人妊婦における時間感覚, 母性課題, そして母性役割行動. *看護研究* 29(2): 94-109, 1996.
- 2003.10.31 受稿, 2004.1.30 受理

要 約

わが国の初産婦が Rubin の示す母親役割獲得過程における 5 つの操作に関する母親役割行動を行っているのかどうか, および 5 つの操作に関する母親役割行動が妊娠週数と, 子どもをもつ母親が近所にいるかどうかと模倣およびロールプレイに関する行動とに関係があるのかを明らかにすることを目的に, 自己記入式質問紙を用いて 255 人の初産婦に調査を行った。調査対象者の平均年齢は 28.2 歳であった。得られた結果から以下のことが明らかになった。

- 1) わが国の初産婦は, 模倣・ロールプレイ・空想や想像・取り込み 投影 拒絶・悲嘆作業に関する母親役割行動を行っていた。
- 2) 妊娠週数と「出産の準備」, 「赤ちゃん用品の準備」, 「胎児の性別の想像」, 「子どもの成長の想像」には関係があった。
- 3) 子どもをもつ母親が近所にいるかどうかと「小さい子どものいる友人と会いたい」, 「小さい子どもを抱っこする」, 「おなかの子どもに話しかける」には関係があった。

キーワード: 初産婦, 母親役割行動, 模倣, ロールプレイ, 空想, 取り込み 投影 拒絶, 悲嘆作業, 妊娠週数